

乳がん 高度検診・治療センター NEW-す NO.62

2019.7

連載記事「特殊な乳がん」

特殊な乳がん (2) ～パジェット病～

前号から「特殊な乳がん」を連載でお届けしていますが、今回はパジェット病を取り上げます。

■パジェット病とは： なかなか治らない乳頭部の湿疹は要注意

乳頭（乳首）に湿疹のような赤みやただれがあり、近くの皮膚科や外科を受診したところ副腎皮質ホルモン（ステロイド）の軟膏を投与され経過を見ていた。ところがいつまで経ってもよくなるので乳腺外科を紹介され、組織検査を受けるとパジェット病という乳がんの一種だと説明を受けた。— これはよくあるパジェット病の経過です。

パジェット病は乳頭の表皮（皮膚の一番浅い層）にがん細胞がみられる乳がん、長年放置されると乳輪やその周囲にまで病変が広がります。乳頭にとどまった狭義のパジェット病ではしこりはなく、マンモグラフィやエコー検査で捉えられないことがほとんどです。一方、触診や画像検査でしこりのある乳がん、病変が乳管を伝ってひろがり、乳頭がパジェット病と類似した外観を呈することがありますが、これはパジェットイドがんと呼ばれ、パジェット病とは区別されます。

狭義のパジェット病の頻度は全乳がんの0.3%（日本乳癌学会 2016年次乳癌登録集計）程度で、かなり珍しい乳がんと言えます。症状は乳頭部の湿疹と似ていますが、乳頭部をこすって細胞を取る細胞診や乳頭の組織を一部切除（生検）する組織診が決め手となります。



■パジェット病の治療

パジェット病は乳頭に発生しますので、乳頭や乳輪を残すいわゆる乳房温存手術の対象にはなりません。乳房は全摘せねばなりません、手術と同時に乳房再建を行うことが可能です。

病変が乳頭だけにとどまる狭義のパジェット病であれば病期は0期であり、適切な局所治療でほぼ完治します。また術後の薬物療法は不要です。

乳頭部の湿疹で治りにくいときは一度乳腺外科を受診してください。

乳腺外科 稲治 英生

市立貝塚病院
TEL : 072-422-5865

